

海を支える人づくり

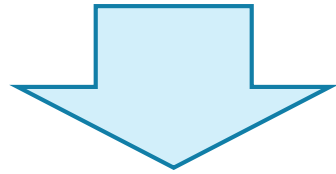
-人材育成を通じた課題解決-



日本財団 常務理事
海野光行

海洋分野における国際的な人材育成事業

国際的な海洋問題の解決のためには、分野・組織や国を越えて横断的な取組みを行える人材が不可欠



海の世界の人づくり事業

- ◆テーマ：海洋管理、国際海洋法、海洋観測など
- ◆パートナー：国連、国際機関、大学や研究所
- ◆フェロー総数：1,507人（149カ国）（2021年1月現在）

海洋分野における人材育成一覧

パートナー	内容/分野	開始年度	フェロー総数
UN DOALOS (国連法務部海事海洋法課)	国連海洋法条約 海洋管理	2003	182 (82カ国)
ITLOS (国際海洋法裁判所)	国際海洋法 国際交渉・紛争解決	2006	81 (67カ国)
Nereus ⇒ NEXUS (ワシントン大学他23の研究機関)	生物資源管理 気候変動、国際経済学など	2010	50 (15カ国)
GEBCO General Bathymetric Chart of the Oceans (大洋水深総図指導委員会)	海底地形	2003	96 (43カ国)
IHO (国際水路機関)	海図	2008	71 (41カ国)
IMLI (国際海事法研究所)	国際海事法・海洋法	2003	182 (73カ国)
WMU (世界海事大学)	海事安全、環境管理 海事法、海事政策	1988	669 (77カ国)
POGO (国際海洋観測機構)	海洋学	2003	110 (43カ国)
SIRC (国際船員研究センター)	社会学 (労働環境)	2003 (2016年度了)	37 (15カ国)
IOGN (国際海洋管理ネットワーク)	海洋管理	2001 (2011年度了)	13 (11カ国)
			1,507 (149カ国)



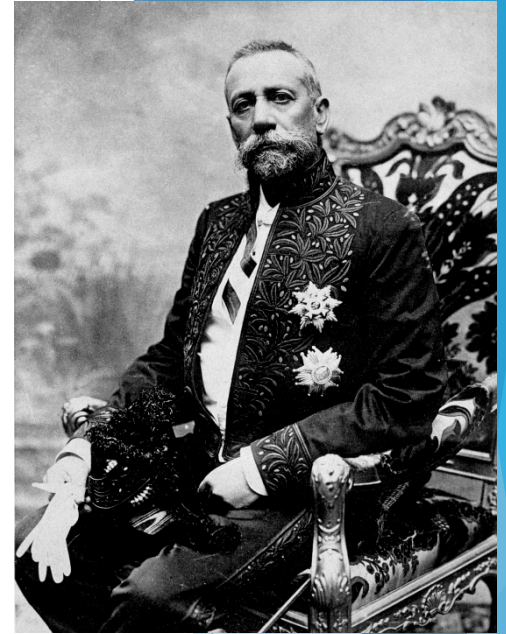
海底地形の解明に向けて ①人材育成

世界の海底地形を解明しようという試みはモナコの大公アルベール1世の提唱により、1903年にはじまった。

しかし、100年の年月が過ぎたにもかかわらず、海底地形の解明・地図化は著しい進展を遂げておらず、全体の6%しか地図化されていなかった。

大きな要因 = 海底地形データの専門家の人材不足

⇒ **NFはGEBCOと協力し、2004年に米国のニューハンプシャー大学に海底地形の専門家を育成するプログラムを設立した。**



Nippon Foundation/
GEBCO Training Program

43カ国96名のフェローを
輩出（2021年現在）



海底地形の解明に向けて

② NF-GEBCO Seabed 2030の立ち上げ

2016年6月モナコにて

*Future of the Ocean Floor Forum*が開かれる

日本財団とGEBCOの共催



日本財団会長笹川陽平が
「2030年までに世界の海底地形を100%明らかにする」ことを提案



2017年8月

The Nippon Foundation-GEBCO Seabed 2030始動



The Nippon Foundation-GEBCO Seabed 2030 紹介ビデオ

目標達成に向けて進めてきたこと

1. 既存の海底地形データの収集

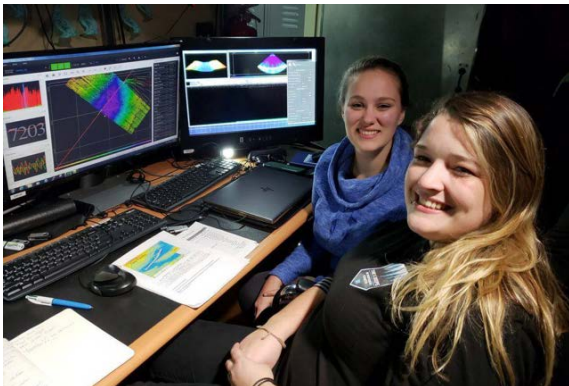
パートナー開拓、IHO & IOCの加盟国への働きかけ

2. 未開拓海域のデータ収集

Five Deeps Expeditionなどの遠征調査との連携

3. 技術開発

GEBCOとの人材育成事業の卒業生を中心として
構成したチームによるXPRIZE参戦

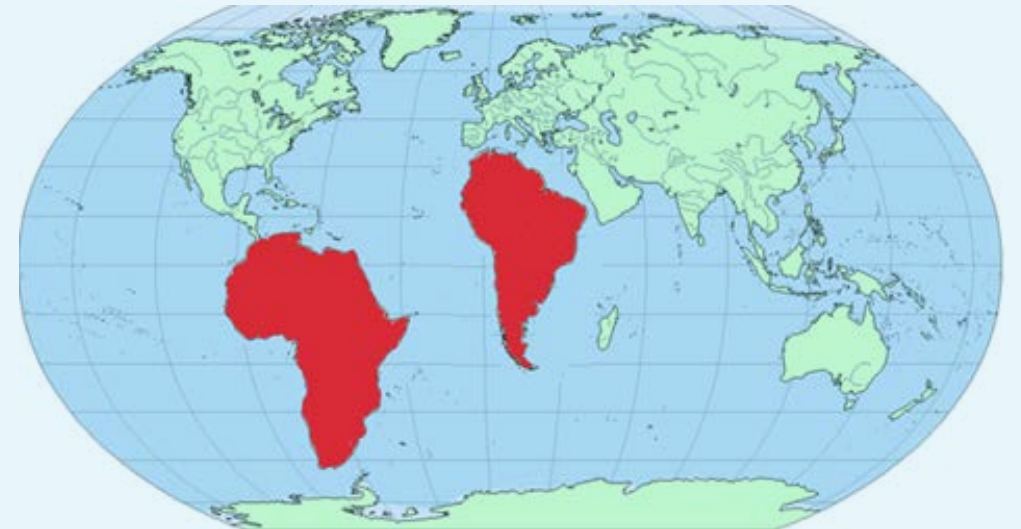


成果（地図化された海底地形の増加）

2017年 **6%** ⇒ 2019年 **15%** ⇒ 2020年 **19%**

プロジェクトを開始してから2年未満で過去100年
かかって地図化されたデータの倍以上のデータを
収集・地図化することができた。

これまでにアフリカと南アメリカの国土をあわせた
範囲に値する約4,700万km²の海底データが地図化
された。



「Shell Ocean Discovery XPRIZE」への参加

■ XPRIZE（エックスプライズ）とは
米国の非営利組織であるXPRIZE財団によって
運営され、世界の大きな課題を解決することを
目的とした取り組み。

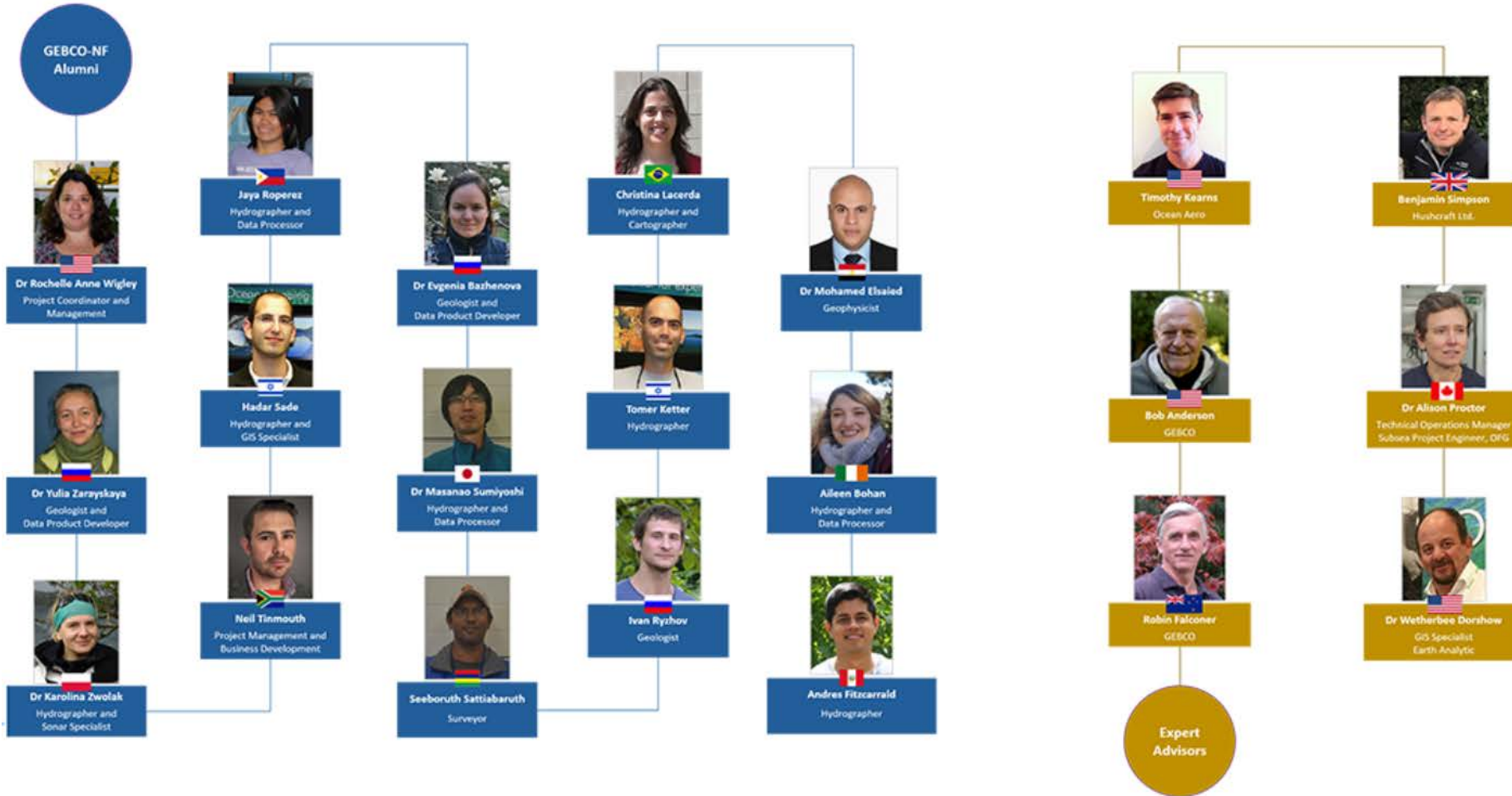
■ Shell Ocean Discovery XPRIZE

無人での超広範囲・高速の海底地形データ収集の
実現に向けた国際的な探査技術コンペティション

- ▶ コンペティションには22カ国32チームが参加
- ▶ ラウンド2では水深4,000mで24時間以内に最低
250km²範囲を測量し、測量エリアの海底地形図を
作成することが求められた。



GEBCO-日本財団 Alumni Team



ビジョン

ネットワーク

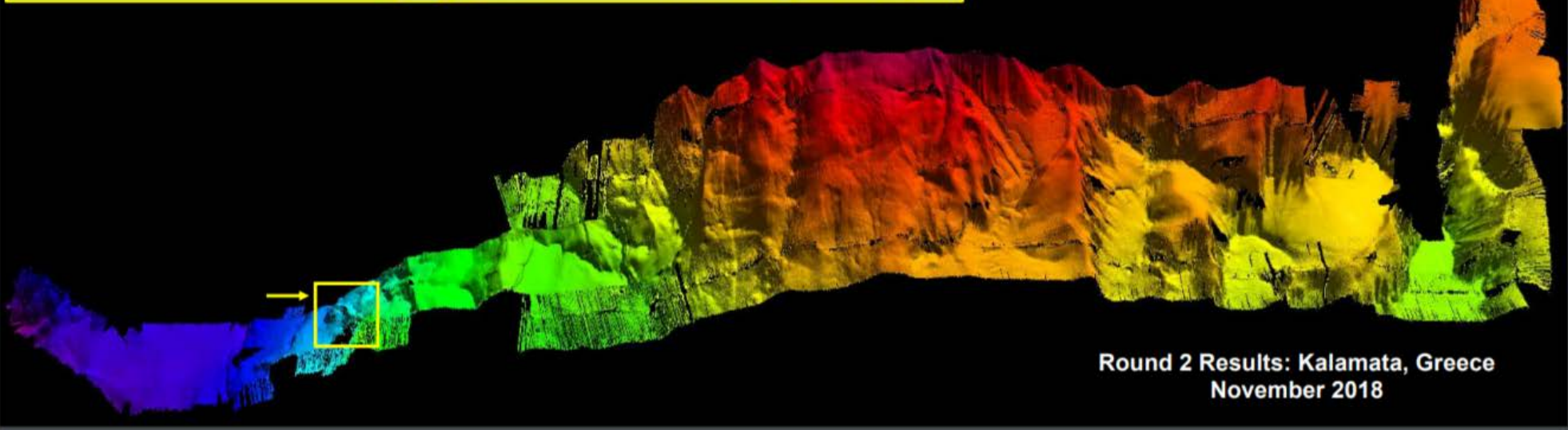
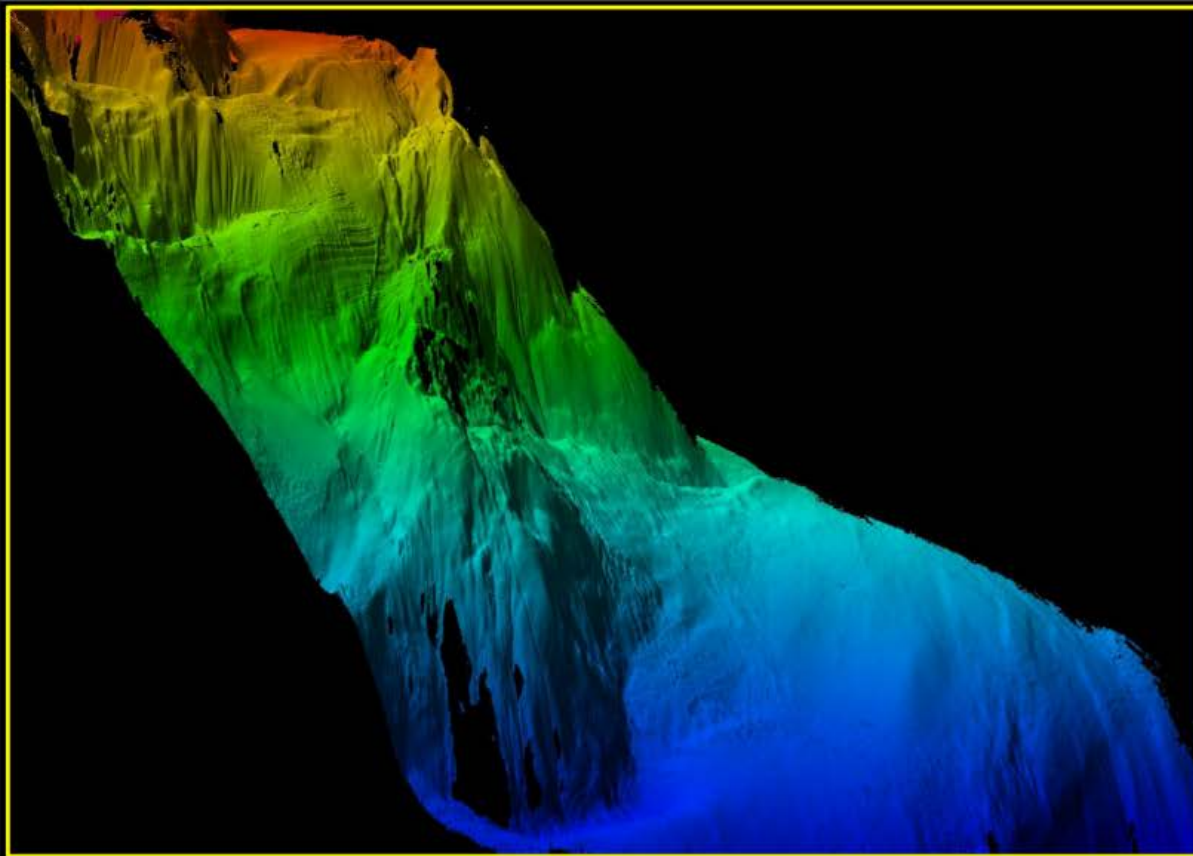
多様性

GEBCOとの人材育成事業はこれまでに**43カ国**、**96名**のフェローを輩出。
 その中の**13カ国16名**のフェローが中心となりチームを構成した。





**GEBCO-Nippon Foundation
Alumni Team
Shell Ocean Discovery XPRIZE**



Round 2 Results: Kalamata, Greece
November 2018

結果

■ 優勝

GEBCO-NF Alumni Team

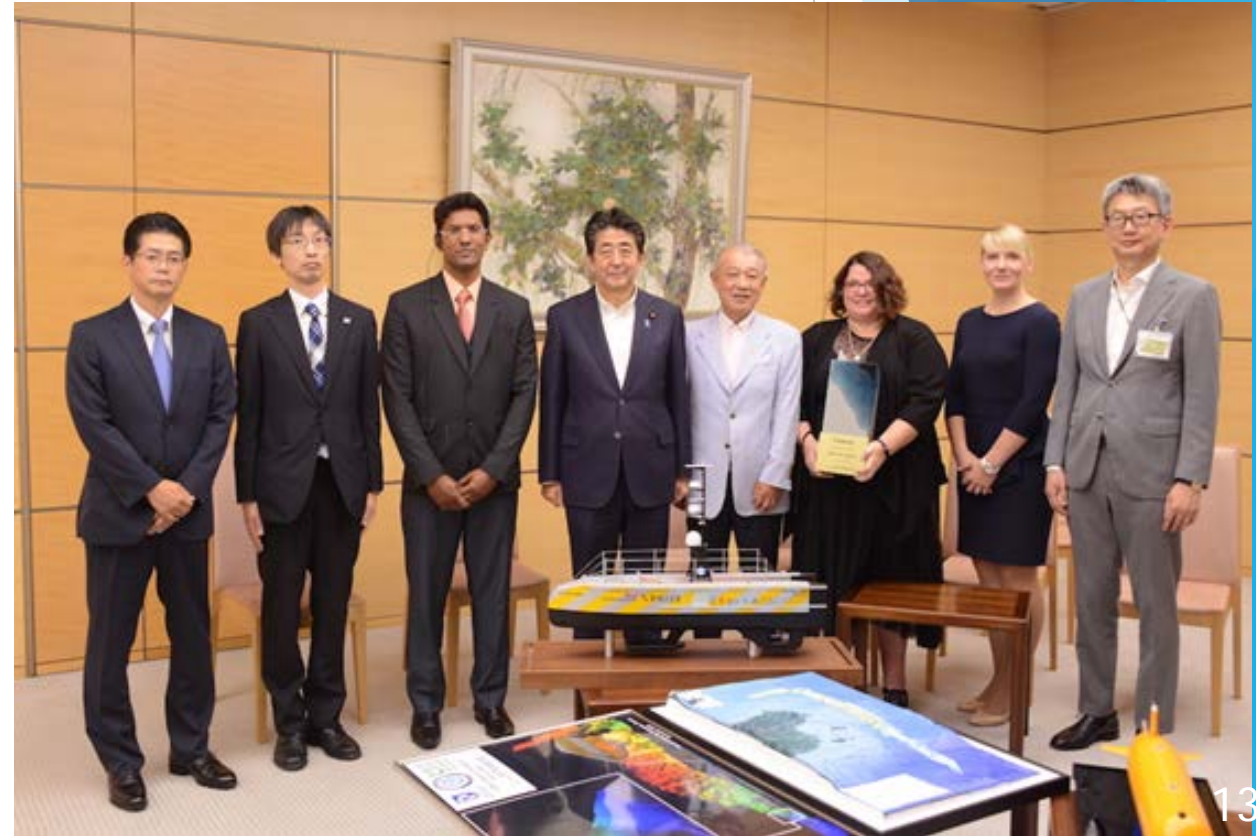
賞金 400万ドル

(約4億3千万円) 獲得



安倍総理表敬

2019年9月18日、GEBCO-日本財団アルムナイチームは総理表敬を行い、XPRIZEの成果および日本財団とGEBCOが推進している世界の海底地形の解明を目的とした取り組みについて報告した。



The Nippon Foundation-GEBCO Alumni 基金の設立

優勝賞金400万ドルはチームから日本財団に寄付され、
「The Nippon Foundation-GEBCO Alumni基金」が設立された。

寄付金の使途

- ▶ NF-GEBCO Seabed 2030の目標達成を促進する取り組み
- ▶ GEBCOとの人材育成事業の強化
- ▶ 同人材育成事業の卒業生のステップアップ

人材育成事業における私たちの気づき

人材育成事業

+ α

1. 「場」づくりの必要性

育成した人材が活躍できる場（世界的なプログラム）を用意することが大切。

2. オールジャパンの限界

世界的な課題を解決には、日本人だけでなく、多国籍・多分野の融合が必要。

3. 日本（人材組織）のプロデュース

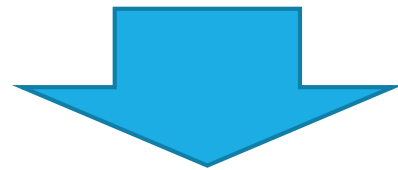
日本の組織が各国の技術や人材をコーディネート。

日本の人材育成事業の今後に向けて

過去10年の間に7つの省庁および関連機関により、57カ国を対象に計92件の海洋関連分野の能力構築事業が実施された。

しかし、事業実施後の人材の動向把握や活用が十分でない？

アルムナイ組織の設置だけでは不十分？



日本の海の司令塔である海洋政策本部の役割に期待